



中古の軽自動車を活用したリサイクル電気自動車の見学会
＝酒田市・東北公益文科大

自動車中古部品販売の山形オートリサイクルセンター（酒田市、伊藤雄一郎社長）が、中古自動車の車体を活用したリサイクル電気自動車（改造EV）を製作、公道を走ることができるナンバープレートを取得した。酒田市の東北公益文科大キャンパス内で19日、見学会が開かれた。

山形オートリサイクルセンター製作

中古の車体使いEV

改造EVは車体の軽い軽自動車を活用。エンジンで動力を出力6速、8馬力のモーターを取り付け、後部座席に12Vの鉛バッテリー8個を搭載した。家庭用コンセントで充電でき、フル充電に要する時間は約8時間。走行距離はフル充電時で約40キロ、最高時速は80キロという。災害で大規模停電が発生した際に、家庭用蓄電池や非常用電源として活用できる。

改造EVは車体の軽い軽自動車を活用。エンジンで動力を出力6速、8馬力のモーターを取り付け、後部座席に12Vの鉛バッテリー8個を搭載した。家庭用コンセントで充電でき、フル充電に要する時間は約8時間。走行距離はフル充電時で約40キロ、最高時速は80キロという。災害で大規模停電が発生した際に、家庭用蓄電池や非常用電源として活用できる。

**フル充電8時間
最高時速は80キロ
蓄電池にも活用**

改造EVは車体の軽い軽自動車を活用。エンジンで動力を出力6速、8馬力のモーターを取り付け、後部座席に12Vの鉛バッテリー8個を搭載した。家庭用コンセントで充電でき、フル充電に要する時間は約8時間。走行距離はフル充電時で約40キロ、最高時速は80キロという。災害で大規模停電が発生した際に、家庭用蓄電池や非常用電源として活用できる。

見学会には、自動車整備業者など約100人が参加。EV

コーディネーターで、EV

honda（新潟県長岡市）

代表取締役の本田昇氏が「電

気自動車（改造EV）のビジ

ネスチャンスと事業化の可能

性について」と題して講演。

引き続き、製作工程の説明や

試乗が行われた。